

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	長浜バイオ大学
設置者名	学校法人関西文理総合学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
バイオサイエンス学部	バイオサイエンス学科	夜・通信	—	36.0	18.0	54.0	13.0	
	バイオサイエンス学科 臨床検査学カリキュラム	夜・通信			21.0	57.0	13.0	
	アニマルバイオサイエンス学科	夜・通信			20.0	56.0	13.0	
	コンピュータバイオサイエンス学科	夜・通信			26.0	62.0	13.0	
	フロンティアバイオサイエンス学科	夜・通信	—	29.0	12.0	41.0	13.0	
	フロンティアバイオサイエンス学科 臨床検査学カリキュラム	夜・通信			23.0	52.0	13.0	
	メディカルバイオサイエンス学科	夜・通信			20.0	49.0	13.0	
	アニマルバイオサイエンス学科(*)	夜・通信			12.0	41.0	13.0	

(備考)平成31年4月バイオサイエンス学科はフロンティアバイオサイエンス学科に名称変更。平成31年4月メディカルバイオサイエンス学科設置。平成31年4月コンピュータバイオサイエンス学科募集停止。平成31年4月より、フロンティアバイオサイエンス学科、メディカルバイオサイエンス学科、アニマルバイオサイエンス(*)学科は新カリキュラム編成になる。新カリキュラム履修生は平成31年(令和元年)度は1年次のみ在籍。

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学 HP https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/education/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	長浜バイオ大学
設置者名	学校法人関西文理総合学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<p>本学 HP により公表する。 https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/ ※別添の「学校法人関西文理総合学園役員名簿」を本学 HP で公表する。</p>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	農業大学校 校長	2017年12月19日 ～2020年12月18日	組織運営体制のチェック
非常勤	大学 名誉教授	2017年12月19日 ～2020年12月18日	組織運営体制のチェック
非常勤	元 株式会社代表取締役会長	2017年12月19日 ～2020年12月18日	組織運営体制のチェック
非常勤	市の教育長	2018年6月1日～ 2020年12月18日	組織運営体制のチェック
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	長浜バイオ大学
設置者名	学校法人関西文理総合学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成時期：前年度8月から翌年2月 <p>前年度夏期に科目担当教員にシラバスの執筆依頼を行う。依頼の際には執筆要領を添付し、科目概要と目標、授業計画、授業方法、授業外学習の指示、学生の到達目標、成績の評価方法と評価基準の提示、参考テキストなど、講義内容が学生に明確に伝わるシラバスを執筆するように指示している。また、カリキュラムポリシーに従い、カリキュラム全体の中での担当科目の位置づけや他科目との有機的なつながりもシラバスに明記してもらっている。</p> <p>前年度11月末までに、科目担当教員が執筆したシラバス原案が執筆要領に沿ったフォーマットであるかを教務担当部署および執筆者以外の教員でチェックする。シラバス内容が前年度から変更された箇所については執筆者に理由を提出して貰い、変更の妥当性を精査している。さらに前年度12月から3月まで校正と修正を繰り返し行い、学生にとって必要な情報を伝えられるシラバスになるように務めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公表時期：当該年3月中旬 <p>シラバスは、冊子体を印刷して新入生に配付するとともに、本学HPに掲載して全在生および学外へ周知している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>本学HPで公開している。</p> <p>https://gww.happywinds.net/nbio-syllabus2019_2/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学内ネットワークを用いた教育学習支援システムを導入し、個々の学生の出席状況などを定期的に調査しており、欠席が続く学生に対しては呼び出し指導を行っている。また学修成果を厳格かつ適性に行うため科目ごとにルーブリックを策定している。各科目で実施している定期試験、中間試験、レポート、口頭発表、実技、小テストや卒業研究で行う研究活動、卒業論文作成などはすべてルーブリックに記載されている項目ごとの到達度に照らし合わせて客観的な評価を行い、学修成果を点数化している。採点結果はS(90点以上)、A(90点未満80点以上)、B(80点未満70点以上)、C(70点未満60点以上)、D(60点未満)の5段階で評価し、当該する評価を科目の成績としている。</p> <p>科目担当教員から提出された成績をもとに、教務委員会にて判定会議を行い、SからCの場合に単位を認定している。Dは不合格である。その後、教務委員会において成績評価の分布や学生向け授業アンケートの結果などに照らし合わせて、各科目における成績評価が厳格かつ適性に行われているかどうかのチェックを行っている。評価の適性に疑問が生じた場合には担当教員のインタビューを行う場合もある。</p> <p>以上の方法により、単位授与を厳格かつ適性に行っている。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 客観的な成績評価を行う指標としてGPA制度を導入している。科目ごとの成績評価を「S・A・B・C・D」の5段階評価（S：100点法による90点以上、A：80点以上90点未満、B：70点以上80点未満、C：60点以上70点未満、D：60点未満（不合格））をもって表示する。「S・A・B・C」それぞれに対して「4・3・2・1」のグレードポイントをつけて、全履修科目の平均を算出する。「D」評価のグレードポイントは0となり、GPA算出の際の総単位数に含まれる。</p>	
$\frac{(Sの単位数 \times 4) + (Aの単位数 \times 3) + (Bの単位数 \times 2) + (Cの単位数 \times 1) + (Dの単位数 \times 0)}{「S \cdot A \cdot B \cdot C \cdot D」評価の総単位数}$	
<p>科目ごとの成績評価はシラバスに記載した方法・基準にしたがい実施している。シラバス、およびGAPの算出方法は本学ホームページで公表している。また、前期・後期の各セメスターの成績の確定後、GPAを算出し、学年ごとのGPA分布と平均値を学内に掲示し公表している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>本学HPで公開している。 URL：https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/education/grade-evaluation/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業の認定に関する方針は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）」において定めている。シラバスに掲載して学生に周知している。また、本学ホームページにも掲載して学外へも公表している。</p> <p>教務委員会にて協議の上、ディプロマポリシーに則って（1）定められた能力を修得していること、（2）各学科・カリキュラムで指定する必要単位を修得していること、（3）合計で128単位以上（臨床検査学カリキュラムは130単位以上）を修得していること、の3点をすべて満たしたと認められる学生に対して卒業を認定し、学士（バイオサイエンス）の学位を授与している。なお3に記載したとおり、各科目の単位認定はルーブリックを利用して厳格かつ適性に行っている。また、大学における学習の集大成として4年次に実施する「卒業研究」と「文献調査・講読」についても他の科目と同様にルーブリックに定めた各項目の到達度を基準に客観的な評価および学修成果の点数化を行っている。</p> <p>以上の仕組みによって卒業認定の適切な実施に努めている。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>本学HPで公開している。 https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/introduction/ バイオサイエンス学部-ディプロマポリシー/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	長浜バイオ大学
設置者名	学校法人関西文理総合学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/
収支計算書又は損益計算書	http://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/
財産目録	http://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/
事業報告書	http://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/
監事による監査報告(書)	http://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:長浜バイオ大学事業計画書 対象年度:2019年度)
公表方法:公表方法:本学HPで公開する。 https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/%e6%b3%95%e4%ba%ba%e3%83%bb%e4%ba%8b%e6%a5%ad%e3%83%bb%e8%b2%a1%e5%8b%99%e6%a6%82%e8%a6%81/
中長期計画(名称:第4次中期事業計画 対象年度:2017年度~2019年度)
公表方法:本学HPで公開する。 https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/%e6%b3%95%e4%ba%ba%e3%83%bb%e4%ba%8b%e6%a5%ad%e3%83%bb%e8%b2%a1%e5%8b%99%e6%a6%82%e8%a6%81/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:本学HPで公開する。 https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/自己点検・評価報告書/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:本学HPで公開する。 https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/自己点検・評価報告書/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名
教育研究上の目的（公表方法：本学 HP https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/introduction/%e5%a4%a7%e5%ad%a6%e3%81%ae%e7%9b%ae%e7%9a%84%e3%83%b%e6%95%99%e8%82%b2%e7%90%86%e5%bf%b5/ スタディ・ガイド）
<p>(概要)</p> <p>本学は、前身である京都人文学園から受け継いだ、「平和とヒューマニズムを何よりも尊び、豊かな人間性と科学的合理性を兼ね備えた『行動する思考人』の育成」を、教育理念としています。</p> <p>フロンティアバイオサイエンス学科</p> <p>【教育目的】</p> <p>フロンティアバイオサイエンスとは、飛躍的に発展する生命科学分野の最先端を理解し、人々の生活の向上に寄与する学問です。本学科では、生物学、農学、理学、工学、医学などの幅広いバイオサイエンス領域を理解できるように、基礎から最先端までの知識と技術を段階的、総合的に学びます。さらに、近年大きなイノベーションが認められる人工知能やビッグデータなどを含むデータサイエンスについても積極的に学ぶことで新しい時代のバイオサイエンス領域を切り開ける能力を獲得します。それにより、バイオサイエンスの知識と技術を介して食品、エネルギー、環境保全、分析化学、化学工業、バイオ、医療、IT、データサイエンスなどの産業に係わる企業、大学、国公立機関などで活躍できる人材の育成を教学の目標に据えています。</p> <p>このような目標を達成するためにフロンティアバイオサイエンス学科では、最先端の生命科学を理解しうる質の高い講義を開講すると共に、自ら考える力や問題解決能力、表現力を身につけるためのアクティブラーニングやeラーニング、チュートリアル教育を活用した能動的な学習法や、最先端の人工知能やビッグデータなどを含む生物データサイエンスに対応するためのコンピュータ教育も積極的に取り入れています。さらに、フロンティアバイオサイエンス実習を1年次から行うことで、最先端のフロンティアバイオサイエンス研究を遂行する上で必要な基礎から専門までの知識と技術を身につけます。</p> <p>(臨床検査学カリキュラム)</p> <p>臨床検査とは、患者さんから採取した血液や喀痰、尿、便、体液などの排出物および心電図や脳波検査などで得た科学的な数値や客観的な画像などの生体情報を健康診断や病気の診断、治療経過の判定などに役立てるものです。臨床検査学コースでは、バイオサイエンスに対する深い洞察力と生物データサイエンスの知識を基盤として、臨床検査に関する専門知識、技術を修得し、高い倫理観を有し、ますます高度化する医療を支え、チーム医療を実践しうる新しい時代に対応した臨床検査技師を育成することを教学の目的とします。</p> <p>このような目標を達成するため臨床検査学カリキュラムでは、臨床検査医学、臨床生理学、臨床化学、病理組織細胞学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学、医用工学、人工知能やビッグデータを含むデータサイエンスなどを理解しうる質の高い講義を開講すると共に、自ら考える力や問題解決能力、表現力を身につけるためにアクティブラーニングやeラーニングを活用した能動的な学習法を積極的に取り入れています。</p> <p>メディカルバイオサイエンス学科</p> <p>【教育目的】</p> <p>メディカルバイオサイエンスとは、現代の高度化・専門化した医療の分野に、創薬科学、生物工学、分子生物学、データサイエンスなどを介して貢献しうる学問領域です。本学科では、新しい進化を遂げようとしている現代の医療分野に、幅広いバイオサイエンスとバイオテクノロジーを基盤として薬学的、生物工学的、分子生物学的、人工知能やビッグデータを活用したデータサイエンス的側面から支援しうる人材を育成することを教学の目標にしています。このような目標を達成するためメディカルバイオサイエンス学科では、最先端の医学に関連したこれらの学問領域を理解しうる質の高い講義を開講すると共に、自ら考える力や問題解決能力、表現力を身につけるためのアクティブラーニングやeラーニング、チュートリアル教育を活用した能動的な学習法や、最先端の人工知能やビッグデータなどを含む生物データサイエンスに対応するためのコンピュータ教育も積極的に取り入れています。さらに、メディカルバイオサイエンス実習を1年次から行うことで、最先端のメディカルバイオサイエンス研究を遂行する上で必要な基礎から専門までの知識と技術を身につけます。</p>

アニマルバイオサイエンス学科

【教育目的】

アニマルバイオサイエンスとは、動物の営みやその機能を分子や個体レベルで理解する学問です。本学科では、動物個体の生命現象を理解するために、アニマルバイオサイエンスに関する知識・技術とその応用能力、論理的・実践的思考能力を修得します。さらに、近年大きなイノベーションが認められる人工知能やビッグデータなどを含むデータサイエンスについても積極的に学ぶことで新しい時代のアニマルバイオサイエンス領域を切り開ける能力を獲得します。それにより、食品、医薬、畜産、環境、などの産業に係わる企業、大学、国公立機関などでリーダーとして活躍できる人材の育成を教学の目標に据えています。このような目標を達成するためアニマルバイオサイエンス学科では、最先端の動物科学を理解しうる質の高い講義を開講すると共に、自ら考える力や問題解決能力、表現力を身につけるためのアクティブラーニングやeラーニング、チュートリアル教育を活用した能動的な学習法や、最先端の人工知能やビッグデータなどを含む動物データサイエンスに対応するためのコンピュータ教育も積極的に取り入れています。さらに、野外活動や実習を行うことで、アニマルバイオサイエンス研究を遂行する上で必要な基礎から専門までの知識と技術を身につけます。

卒業の認定に関する方針（公表方法：本学 HP <https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/introduction/%e5%a4%a7%e5%ad%a6%e3%81%ae%e7%9b%ae%e7%9a%84%e3%83%bb%e6%95%99%e8%82%b2%e7%90%86%e5%bf%b5/> スタディ・ガイド

（概要）

フロンティアバイオサイエンス学科

本学科では、生命科学領域の基本から実践に至る知識と技術を修得し、食品、エネルギー、環境保全、分析化学、化学工業、バイオ、医療、ITなどの産業に係わる企業、大学、国公立機関などで活躍できる人材の育成を教学の目標に据えています。これらの教育目標のもとに開講された科目の履修とその教育目標を達成し、学科が規定する所定単位の取得をもって、学士の学位を授与します。

- 1) 広い教養とフロンティアバイオサイエンスに関する専門知識・技術、データサイエンスに対する理解力を兼ね備え、社会のリーダーとして産業の振興および学術文化の発展に寄与できる。
- 2) 高度情報化社会に適応できる情報解析力と国際化に対応できる語学力を持つ。
- 3) 生命への畏敬の念と倫理観を持つ。
- 4) 主体的に学び、自ら課題を発見し、その解決法を導き出す思考力を持つ。
- 5) 他者と意思を疎通し、協力して物事に当たる行動力を持つ。

（臨床検査学カリキュラム）

臨床検査学カリキュラムでは、バイオサイエンスに対する深い洞察力とデータサイエンス生物学の知識を基盤として、臨床検査に関する専門知識、技術、高い倫理観を有する、新しい時代に対応した臨床検査技師を育成することを教学の目的とします。これらの教育目標のもとに開講された科目を履修し、各科目の教育目標を達成し、学科が規定する所定単位の取得をもって、学士の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力は以下のようになります。

- 1) 臨床検査技師国家資格を取得できる学力を身につけている。
- 2) 生物データサイエンスを含むバイオサイエンスに対する深い洞察力を有する。
- 3) チーム医療を理解し、他の医療職と円滑に連携して医療に貢献出来る能力を身に付けている。
- 4) 高度情報化社会に適応できる情報解析力と国際化に対応できる語学力を持つ。
- 5) 生命への畏敬の念と倫理観に加え、病める人の気持ちに寄り添える感性を有している。
- 6) 主体的に学び、自ら課題を発見し、その解決法を導き出す思考力を持つ。
- 7) 他者と意思を疎通し、協力して物事に当たる行動力を持つ。

メディカルバイオサイエンス学科

メディカルバイオサイエンス学科では、基本から実践に至るメディカルバイオサイエンスの知識と技術を修得し、医薬品、医用機器、臨床分析、化学、IT、臨床検査などの産業に係わる企業、大学、病院、国公立機関などにおいて社会のリーダーとして活躍できる人材の育成を教学の目標に据えています。これらの教育目標のもとに開講された科目の履修とその教育目標を達成し、学科が規定する所定単位の取得をもって、学士の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力は以下のとおりです。

- 1) 広い教養とメディカルバイオサイエンスに関する専門知識・技術、データサイエンスに対する理解力を兼ね備え、社会のリーダーとして産業の振興および学術文化の発展に寄与できる。
- 2) 高度情報化社会に適応できる情報解析力と国際化に対応できる語学力を持つ。
- 3) 生命への畏敬の念と倫理観、地球環境への洞察力を持つ。

- 4) 主体的に学び、自ら課題を発見し、その解決法を導き出す思考力を持つ。
- 5) 他者と意思を疎通し、協力して物事にあたる行動力を持つ。
- 6) 広い教養とメディカルバイオサイエンスに関する専門知識・技術、データサイエンスに対する理解力を兼ね備え、産業の振興および学術文化の発展に寄与できる。

アニマルバイオサイエンス学科

アニマルバイオサイエンス学科では、アニマルバイオサイエンス領域の基本から実践に至る知識と技術を修得し、食品、医薬、畜産、愛玩動物、環境保全などの産業に係わる企業、大学、国公立機関などで社会のリーダーとして活躍できる人材の育成を教学の目標に据えています。これらの教育目標のもとに開講された科目の履修とその教育目標を達成し、学科が規定する所定単位の取得をもって、学士の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力は以下のとおりです。

- 1) 広い教養とアニマルバイオサイエンスに関する専門知識・技術、データサイエンスに対する理解力を兼ね備え、社会のリーダーとして産業の振興および学術文化の発展に寄与できる。
- 2) 高度情報化社会に適応できる情報解析力と国際化に対応できる語学力を持つ。
- 3) 生命への畏敬の念と倫理観を持つ。
- 4) 主体的に学び、自ら課題を発見し、その解決法を導き出す思考力を持つ。
- 5) 他者と意思を疎通し、協力して物事にあたる行動力を持つ。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学 HP <https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/introduction/%e5%a4%a7%e5%ad%a6%e3%81%ae%e7%9b%ae%e7%9a%84%e3%83%bb%e6%95%99%e8%82%b2%e7%90%86%e5%bf%b5/> スタディ・ガイド

（概要）

フロンティアバイオサイエンス学科

【カリキュラム・ポリシー】

フロンティアバイオサイエンス学科では、飛躍的に発展する生命化学の最先端を理解し、人工知能やビッグデータなどを含むデータサイエンスについても積極的に学ぶことで新しい時代のバイオサイエンス領域を切り開ける人材の育成を教学の目標に据えています。本学科では、このような教学目標を達成するために、基礎から最先端までのバイオ科学の知識と技術を段階的、総合的に学べるように各講座を配置しています。また、ビジネス講座や就職支援講座、学生が得たバイオ科学の知識を地域社会で役立てる講座も配置することで、社会で即戦力として活躍できる人材の育成を担保しています。さらに、授業外での学びをサポートする専門教員や、実験実習をサポートする専門教員を配置することで、効率的かつ高いレベルでの知識と技術の修得を保証しています。フロンティアバイオサイエンス学科における教育目標を達成するために、食品、エネルギー、環境保全、分析化学、化学工業、バイオ、医療、IT、データサイエンスというキーワードを中心におき、以下のようなカリキュラムを設置しています。

<学部共通科目>として以下の方針でバイオサイエンスの系統的な履修を促します。

- 1) 生命科学の知識を国際的レベルで身につけるために、1年次の「一般英語 I, II」と2年次の「科学英語 I, II」を必修で配置し、3年次においても「科学英語 III, IV」を配置することで、継続的な学修を促す。
- 2) 広い視野を身につけるための教養科目を配置するとともに、データサイエンスの基礎を理解するために1年次に「サイエンスイノベーション入門」必修で配置する。
- 3) 1年次にキャリア科目である「大学での学びと実践方法 I, II」を必修で配置し、その後3年次まで切れ目なくキャリア科目を配置して、学生自身のキャリアデザインを促す。
- 4) バイオサイエンスに必要な不可欠な基礎知識の修得を目的として、「数理科学 I」、「エッセンシャル化学 I」、「エッセンシャル生化学 I, II」、「エッセンシャル生物学 I, II」などの科目を必修として配置する。
- 5) バイオサイエンスの多様な実験技術を身につけるために、「自然科学基礎実験 I, II」、「応用実験 I, II」、「コンピュータ応用実習」を必修で配置する。

<専門科目>としてフロンティアバイオサイエンス学科の特性に沿い、食農科学系、生命工学系、生命情報系の専門性の高い科目群を配置するとともに、「F 専門実験 I, II」や「生命情報科学専門実習 I」を必修で配置し、4年次の卒業研究へ向けた知識や技術の修得を促す。4年次では集大成としての「卒業研究」を必修として配置し、実社会で活躍するために必要な能力を養う。

（臨床検査学カリキュラム）

臨床検査学カリキュラムでは、バイオサイエンスに対する深い洞察力と生物データサイエンスの知識を基盤として、臨床検査に関する専門知識、技術、高い倫理観を有する、新しい時代に対応した臨床検査技師を育成することを教学の目的とします。このような教学の目標を達成するために、高いバイオ

サイエンスの基礎と専門知識、データサイエンスを修得する科目に加え、臨床検査技師になるために必要な病理学、血液学、免疫学、生理学、組織・解剖学、微生物学などの臨床系科目や医療人としての倫理観を養うための科目を配置しています。また、様々な実習や各種ビジネス講座を配置することで、新時代の臨床検査技師として活躍できる有能な人材の育成を担保しています。さらに、授業外での学びをサポートする専門教員や、実験実習をサポートする専門教員を配置することで、効率的かつ高いレベルでの知識と技術の修得を保証しています。

臨床検査学カリキュラムにおける教育目標を達成するために、以下のようなカリキュラムを設置しています。

<学部共通科目>として以下の方針でバイオサイエンスの系統的な履修を促します。

- 1) 生命科学の知識を国際的レベルで身につけるために、1年次の「一般英語 I, II」と2年次の「科学英語 I, II」を必修で配置し、3年次においても「科学英語 III, IV」を配置することで、継続的な学修を促す。
- 2) 広い視野を身につけるための教養科目を配置するとともに、データサイエンスの基礎を理解するために1年次に「サイエンスイノベーション入門」必修で配置する。
- 3) 1年次にキャリア科目である「大学での学びと実践方法 I」を必修で配置し、その後3年次まで切れ目なくキャリア科目を配置して、学生自身のキャリアデザインを促す。
- 4) バイオサイエンスに必要な不可欠な基礎知識の修得を目的として、「数理科学 I」、「エッセンシャル化学 I」、「エッセンシャル生化学 I, II」、「エッセンシャル生物学 I, II」などの科目を必修として配置する。
- 5) バイオサイエンスの多様な実験技術を身につけるために、「自然科学基礎実験 I, II」、「コンピュータ応用実習」を必修で配置する。

<専門科目>として臨床検査技師になるために必要な専門科目群とあわせて実習科目群を必修で配置し、資格取得へ向けた知識や技術の修得を促す。4年次では「臨地実習」と「卒業研究」を必修として配置し、さらに臨床検査技師国家試験に向けた特別教育を行う。

メディカルバイオサイエンス学科

メディカルバイオサイエンス学科では、幅広いバイオサイエンスとバイオテクノロジーを基盤として創薬科学、生物工学、分子生物学を理解し、人工知能やビッグデータなどを含むデータサイエンスについても積極的に学ぶことで新しい時代のメディカルバイオサイエンス領域を切り開ける人材を育成することを教学の目標にしています。この様な教学の目標を達成するために、本学科では、基礎的なバイオ科学から最先端のバイオメディカル科学までを段階的、総合的に学べるように各講座を配置しています。また、様々な実習や各種ビジネス講座を配置することで、社会で活躍できる有能な人材の育成を担保しています。さらに、授業外での学びをサポートする専門教員や、実験実習をサポートする専門教員を配置することで、効率的かつ高いレベルでの知識と技術の修得を保証しています。

メディカルバイオサイエンス学科における教育目標を達成するために、医療科学、創薬化学、医療データサイエンスというキーワードを中心に置き、以下のようなカリキュラムを設置しています。

<学部共通科目>として以下の方針でバイオサイエンスの系統的な履修を促します。

- 1) 生命科学の知識を国際的レベルで身につけるために、1年次の「一般英語 I, II」と2年次の「科学英語 I, II」を必修で配置し、3年次においても「科学英語 III, IV」を配置することで、継続的な学修を促す。
- 2) 広い視野を身につけるための教養科目を配置するとともに、データサイエンスの基礎を理解するために1年次に「サイエンスイノベーション入門」必修で配置する。
- 3) 1年次にキャリア科目である「大学での学びと実践方法 I, II」を必修で配置し、その後3年次まで切れ目なくキャリア科目を配置して、学生自身のキャリアデザインを促す。
- 4) バイオサイエンスに必要な不可欠な基礎知識の修得を目的として、「数理科学 I」、「エッセンシャル化学 I」、「エッセンシャル生化学 I, II」、「エッセンシャル生物学 I, II」などの科目を必修として配置する。
- 5) バイオサイエンスの多様な実験技術を身につけるために、「自然科学基礎実験 I, II」、「応用実験 I, II」、「コンピュータ応用実習」を必修で配置する。

<専門科目>としてメディカルバイオサイエンス学科の特性に沿い、医療科学系、創薬科学系、医療情報系の専門性の高い科目群を配置するとともに、「M 専門実験 I, II」や「インシリコ創薬基礎実習」を必修で配置し、4年次の卒業研究へ向けた知識や技術の修得を促す。4年次では集大成としての「卒業研究」を必修として配置し、実社会で活躍するために必要な能力を養う。

アニマルバイオサイエンス学科

アニマルバイオサイエンス学科では、動物個体の生命現象を深く学ぶとともに、人工知能やビッグデータなどを含むデータサイエンスについても積極的に学ぶことで新しい時代の食品、医薬、畜産、

愛玩動物、環境保全などの分野で活躍できる人材の育成を教学の目標に据えています。このような教学の目標を達成するために、本学科では、基礎的なバイオ科学から最先端のアニマル科学までを段階的、総合的に学べるように各講座を配置しています。また、世界有数の古代湖・琵琶湖などにおける生態環境野外での実習や各種ビジネス講座を配置することで、社会で活躍できる有能な人材の育成を担保しています。さらに、授業外での学びをサポートする専門教員や、実験実習をサポートする専門教員を配置することで、効率的かつ高いレベルでの知識と技術の修得を保証しています。アニマルバイオサイエンス学科における教育目標を達成するために、動物、食品、畜産、愛玩動物、環境、医薬、動物データサイエンスというキーワードを中心におき、以下のようなカリキュラムを設置しています。

<学部共通科目>として以下の方針でバイオサイエンスの系統的な履修を促します。

- 1) 生命科学の知識を国際的レベルで身につけるために、1年次の「一般英語 I, II」と2年次の「科学英語 I, II」を必修で配置し、3年次においても「科学英語 III, IV」を配置することで、継続的な学修を促す。
- 2) 広い視野を身につけるための教養科目を配置するとともに、データサイエンスの基礎を理解するために1年次に「サイエンスイノベーション入門」必修で配置する。
- 3) 1年次にキャリア科目である「大学での学びと実践方法 I, II」を必修で配置し、その後3年次まで切れ目なくキャリア科目を配置して、学生自身のキャリアデザインを促す。
- 4) バイオサイエンスに必要な不可欠な基礎知識の修得を目的として、「数理科学 I」、「エッセンシャル化学 I」、「エッセンシャル生化学 I, II」、「エッセンシャル生物学 I, II」などの科目を必修として配置する。
- 5) バイオサイエンスの多様な実験技術を身につけるために、「自然科学基礎実験 I, III」、「応用実験 I, II」、「コンピュータ応用実習」を必修で配置する。

<専門科目>としてアニマルバイオサイエンス学科の特性に沿い、動物科学や食品衛生関連の専門性の高い科目群を配置する。特に「湖北動物プロジェクト」では自然豊かな琵琶湖の湖岸に位置する本学の環境を生かし、琵琶湖周辺地域の課題を解決するため、座学、野外活動、地域貢献を統合した実践的な科目を提供する。さらに「A 専門実験 I, II」を必修で配置し、4年次の卒業研究へ向けた知識や技術の修得を促す。また、学生の進路に応じて食品・実験動物か生物多様性に関する科目のいずれかを選択して専門知識の修得を促す。4年次では集大成としての「卒業研究」を必修として配置し、実社会で活躍するために必要な能力を養う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学 HP <https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/introduction/%e5%a4%a7%e5%ad%a6%e3%81%ae%e7%9b%ae%e7%9a%84%e3%83%b%e6%95%99%e8%82%b2%e7%90%86%e5%bf%b5/> スタディ・ガイド

(概要)

フロンティアバイオサイエンス学科

生物の機能や営みに関心を持っており、フロンティアバイオサイエンスを学び、バイオサイエンスを始めとする様々な分野で社会の役に立ちたいという意欲を持つ、次のような人を求めます。

- 1) フロンティアバイオサイエンスを学ぶ上で必要な基礎学力を持つ。
- 2) 物事を論理的に考え、他者とコミュニケーションが取れる。
- 3) 向上心を持って勉学に取り組むことができる。
- 4) フロンティアバイオサイエンスの知識を持って、社会の様々な分野での活躍を望む。

(臨床検査学カリキュラム)

新しく時代の先端医療にも対応できる有能な臨床検査技師として社会の役に立ちたいという意欲を持つ次のような人を求めます。

- 1) 臨床検査学を学ぶ上で必要な基礎学力を持つ。
- 2) 物事を論理的に考え、高度化する医療を支える医療人として活躍することが出来る。
- 3) 弱者に心配り気配りが出来、他者とコミュニケーションが取れる。
- 4) 医学・医療に興味があり、向上心を持って勉学に取り組むことができる。

メディカルバイオサイエンス学科

現代の医療や医療に貢献しうる研究分野に知的関心を持っており、メディカルバイオサイエンスを学び、製薬、医用機器、臨床分析、化学、医療データサイエンスなどの産業に係わる企業、大学、病院、国公立機関などで社会の役に立ちたいという意欲を持つ、次のような人を求めます。

- 1) メディカルバイオサイエンスを学ぶ上で必要な基礎学力を持つ。

- 2) 物事を論理的に考え、他者とコミュニケーションが取れる。
- 3) 向上心を持って勉学に取り組むことができる。
- 4) メディカルバイオサイエンスの知識を持って、社会の様々な分野での活躍を望む。

アニマルバイオサイエンス学科

動物の機能や営みに関心を持っており、アニマルバイオ科学を学び、新しい時代の食品、医薬、畜産、愛玩動物、環境保全などの分野で社会の役に立ちたいという意欲を持つ、次のような人を求めます。

- 1) アニマルバイオサイエンスを学ぶ上で必要な基礎学力を持つ。
- 2) 物事を論理的に考え、他者とコミュニケーションが取れる。
- 3) 向上心を持って勉学に取り組むことができる。
- 4) アニマルバイオサイエンスの知識を持って、社会の様々な分野での活躍を望む。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学 HP URL：<https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/introduction/>
大学案内

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1人	－					1人
バイオサイエンス	－	24人	18人	2人	11人	11人	66人
	－	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		55人					55人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法：本学 HP https://frompage.pluginfree.com/weblish/frompage/3605586227/index.shtml?rep=1						
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FDに関する記録および報告書等の作成に関すること 大学の学園通信「めいこう」NO.37（2018年秋発行）に2017年度活動報告を記載 2018年度活動報告を「めいこう」NO.40（2019年夏発行）に掲載予定 ・大学が取り組む教育改善に関する講演会、シンポジウム等の支援に関すること 大学内情報システム「デスクネッツ」に講演会、シンポジウム等の情報提供 <p>b 実施方法</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 関西地区FD連絡協議会に加盟して、他大学等のFD関連セミナーの開催情報の提供を受け、全教職員の参加促進を図っている。参加者にはセミナー報告書と参加時の資料の提出を義務付け、報告書と資料を本学図書情報センターの閲覧コーナーに展示し、教職員の閲覧に供している。 (2) 他大学等のFDの取り組みの中で、本学の教学改善に参考とすべきものについては外部講師を招聘し、講演会形式による学部ならびに大学院FD研修会を開催する機会を設け、講演内容をFD委員会ならびに教学関連委員会において議論し、次年度以降の教学改善に繋げる方策を取っている。 (3) 研修会の内容等を参加教員だけでなく全教員が共有するために、研修会報告・感想、研修内容の活用例等を学内WEB上に公開する。 <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) FD研修会の開催 <ol style="list-style-type: none"> ①「学びが深まるアクティブラーニングの授業設計－互惠の関係の構築について学ぶ」 平成31年3月13日 (東海学園大学スポーツ健康科学部准教授 水野正朗先生、教員28名参加) ②「ルーブリック評価に関して」平成30年8月27日 (長浜バイオ大学学生教育推進機構長 河合 靖教授 教職員49名参加) <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 上記学部FD研修会を経て①に関しては、学び手が他者との対話を通じて学びあうことで学習効果を確認なものにする関係性を学習し、2019年度前期講義に生かしている。2019年度後半には、その成果を踏まえ発展編を企画中である。また、②に関しては、2019年度から全科目において、ルーブリック評価を導入しており、前期セメスター成績評価終了後、再度研修会を開催し、授業改善に生かしていきたい。 							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
バイオサイエ ンス学部	238人	251人	105.5%	960人	1076人	112.1%	4人	0人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	238人	251人	105.5%	960人	1076人	112.1%	4人	0人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
バイオサイ エンス学部	238人 (100%)	34人 (14.3%)	188人 (79.0%)	16人 (6.7%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	238人 (100%)	34人 (14.3%)	188人 (79.0%)	16人 (6.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 大学院進学先としては本学大学院が最も多いが、本学以外ではほとんどが国公立大学大学院への進学。就職先では製薬、医療、食品、環境、化学の関連企業が多い。				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
バイオサイ エンス	283人 (100%)	227人 (80.2%)	28人 (9.9%)	28人 (9.9%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	283人 (100%)	227人 (80.2%)	28人 (9.9%)	28人 (9.9%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
・作成時期：前年度8月から翌年2月
前年度夏期に科目担当教員にシラバスの執筆依頼を行う。依頼の際には執筆要領を添付し、科目概要と目標、授業計画、授業方法、授業外学習の指示、学生の到達目標、成績評価基準の提示、参考テキストなど、講義内容が学生に明確に伝わるシラバスを執筆してもらえるように心がけている。また、カリキュラムポリシーに従い、カリキュラム全体の中での担当科目の位

置づけや他科目との有機的なつながりもシラバスに明記してもらっている。
 前年度11月末までに、科目担当教員が執筆したシラバス原案が執筆要領に沿ったフォーマットであるかを教務担当部署および執筆者以外の教員でチェックする。シラバス内容が前年度から変更された箇所については執筆者に理由を提出して貰い、変更の妥当性を精査している。さらに前年度12月から3月まで校正と修正を繰り返し行い、学生にとって必要な情報を伝えられるシラバスになるように務めている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 学習の到達度を客観的に評価するためルーブリック評価、GPA 制度を導入している。卒業の認定方針として「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)」を策定し、このディプロマポリシーに定められた能力を獲得し、各学科・カリキュラムの所定単位を修得、かつ128単位以上(臨床検査学カリキュラムは130単位以上)を修得したと判定した学生に、学士(バイオサイエンス)の学位を授与している。4年間の集大成として実施する「卒業研究」「文献調査・講読」には、成績評価基準が定められており、「卒業研究」「文献調査・講読」の修得をもってディプロマポリシーに定められた能力を獲得したと判断している。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
バイオサイエンス 学部	バイオサイエンス 学科	128 単位	有・無	1 年間で 48 単位
	バイオサイエンス 学科 臨床検査学 カリキュラム	130 単位	有・無	1 年間で 48 単位
	アニマルバイオサイ エンス学科	128 単位	有・無	1 年間で 48 単位
	コンピュータバイ オサイエンス学科	128 単位	有・無	1 年間で 48 単位
	フロンティアバイ オサイエンス学科	128 単位	有・無	1 年間で 48 単位
	フロンティアバイ オサイエンス学科 臨床検査学カリキ ュラム	130 単位	有・無	1 年間で 48 単位
	メディカルバイ オサイエンス学科	128 単位	有・無	1 年間で 48 単位
	アニマルバイ オサイエンス学科	128 単位	有・無	1 年間で 48 単位
GPAの活用状況(任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法: 本学 HP <https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
バイオサイエンス 学部 (2019年 度1回 生)	フロンティアバイオサイエンス学科	950,000円	250,000円	420,000円	施設整備費、実験・実習費など
	フロンティアバイオサイエンス学科 臨床検査学コース	950,000円	250,000円	420,000円	施設整備費、実験・実習費など
	メディカルバイオサイエンス学科	950,000円	250,000円	420,000円	施設整備費、実験・実習費など
	アニマルバイオサイエンス学科	950,000円	250,000円	420,000円	施設整備費、実験・実習費など
バイオサイエンス 学部 (2019年 度2回 生以上)	バイオサイエンス学科	1,000,000円	0円	450,000円	施設整備費、実験・実習費など
	アニマルバイオサイエンス学科	1,000,000円	0円	450,000円	施設整備費、実験・実習費など
	コンピュータバイオサイエンス学科	1,000,000円	0円	450,000円	施設整備費、実験・実習費など

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>各セメスターの開始前に履修ガイダンスを学年ごとに実施し、丁寧な修学指導を行っている。</p> <p>学習支援に関しては、学習支援センターという部署に化学・生物・数学・物理・英語担当の教員を配置した学習相談窓口を設け、修学相談に来た学生に対して個別指導によるサポートしている。また、優れた成績をあげている上級生を学習アドバイザーに任命して数学、化学、生物学、実験実習などの個別指導に協力して貰っている。教育学習支援システム「manaba」を利用して、講義資料や小テストを「manaba」上に公開し、学生自身が授業外で学習ができるようにしている。シラバスでは、全ての科目において「学生からの質問への対応方法」が指示されており、授業等で疑問点が生じた場合に、学生が教員に質問しやすい体制を構築している。また、実験実習では、大学院生によるTAを配置して支援している。成績優秀者には、長浜バイオ大学学内奨学金等の奨学金制度があり、学生の勉学意欲の増進に貢献している。学生からの要望（例えば、図書室の開室時間、プリンター設置、Wi-Fi ネットワーク強化、貸出ノートPC、教科書を図書室に配置、学生の希望図書への対応、バイオコーポ・食堂の改善）は、授業アンケートあるいは卒業時のアンケートおよび保護者会からの意見を収集して、教育環境の改善を行っている。</p>

る。
また、新入生を対象とした「ぴあサポ（学生チューター制度）」を実施している。この制度は、新入生が戸惑う大学での学習や生活、進路選択などを、学生チューター（上級生）が自らの経験をもとにサポートしていくものである。新入生が気軽に学生チューターに相談できるように、フレッシュャーズキャンプとも連携して取り組んでいる。新入生への意識調査からも「ぴあサポは大学生生活に役立っている」「先輩チューターに質問・相談がしやすい」とする意見が多数を占めており、「新入生同士の話のしやすさ」とも強く結びつくなど、ぴあサポが新入生の早期定着に大きく寄与していることが窺える。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

本学の就職支援は、ディプロマポリシーに基づいた教育活動を通して学生の自己成長を促しながら、大学院進学や就職活動に取り組めるよう育成していくことを重視している。学生は3年前期に所属する研究室を決定する。所属研究室の決定後、学生と進路相談のため配属先研究室を主管する教員、就職を担当する就職・キャリアサポートセンター職員による3者面談を行っている。大学院進学を希望する学生については教員がその後の支援を行っている。就職希望の学生に対しては、就職・キャリアサポートセンター職員が、（1）個別相談による支援、（2）就職支援講座の実施、（3）個別指導による就職支援、を行っている。これらの支援に当たっては、カリキュラムポリシーによる教学指導、就業力育成支援をはじめとしたキャリア教育との連携強化を図りながら、学生と企業との適切なマッチングを促進できるように心がけている。

（1）個別相談による支援

研究室単位で就職・キャリア担当職員を配置し、上述の3者面談を皮切りに個別相談による支援の関係づくりを進めている。3者面談以後は、就職・キャリアサポートセンターに設けた就職活動の相談窓口への来室を促している。相談窓口での指導に当たっては就職活動に対する単なる質問対応に終わらせることなく、就労観の醸成や社会人としての成長を促している。2019年3月卒学部生については累計1959件の指導を行った。

（2）就職支援講座の実施

就職活動に取り組むすべての学生を的確に支援・指導ができるように、3年生に向け就職支援講座を実施している。この講座では、企業担当者を招いての業界説明会や企業説明会、就職活動に必要な自己分析や業界・企業研究、応募行動に必要な履歴書やエントリーシート作成、面接対策、など就職活動に必要な具体的な情報を学生に提供している。

（3）個別指導による就職支援

就職活動を開始した学生に対しては個別に就職支援を行っている。就職支援には、学生個別に履歴書・エントリーシート作成法の指導や模擬面接による面接練習などがある。2019年3月卒学部生に対しては874件の模擬面接を行った。来室相談の内容、記録を担当職員、常駐の外部キャリアカウンセラー、研究室指導教員で情報共有し、学生の就職活動の進捗を見届けながら年間を通して継続的な支援を行っている。2019年3月卒の学部生13期生の最終の就職決定率は98.4%、卒業生アンケートでの就職決定先についての満足度は92.4%となっている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

入学時より全学生を対象に、毎年4月に定期健康診断を実施している。また、医務室を設置し、学生のケガや急病に備えて対応している。学生が学業を継続するための「こころ」のケアについて、開講期間中の週3日間学生相談室を開室し、臨床心理士(外部委託者)によるカウンセリングを実施し、学生からの相談に対応している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学 HP <https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/research/>